



## いきいき北っ子

### 人生最初の教師

早いもので4月もあっという間に過ぎようとしています。いつの間にか初夏の訪れを感じる風に青葉が薫り、過ごしやすい季節になりました。

4月早々、不安そうに登園していた子どもたちも、少しずつ園生活に慣れ、子どもたちの笑顔が増えてまいりました。これからも子どもたちが安心して生活できるよう努めてまいります。

さて、人は自分の子どもが生まれると親になります。しかし、それはひとまず物理的に親になったに過ぎません。実はそこから「親学」ともいえる勉強が始まります。特に一人目の子どもは大変です。未知との遭遇の連続ではないでしょうか。「食べ物の好き嫌いが多いからどうしよう」「子どもが泣き止まないからどうしよう」「習い事に行かせた方がいいのか、どうしよう」と、どうしようどうしようの連続です。



子育ては、楽しみもたくさんありますが、思いどおりにならなかったり、判断に迷ったりするなど、「難しいなあ」と、思われている方も多いのではないのでしょうか。

なぜなら、私を含めて保護者の皆様は「スイッチポン」の中で育ってきた人ばかりだからです。ボタン一つ押せばお風呂に入れます。ご飯も炊けます。洗濯もできます。リモコンボタンでテレビのチャンネルが変わり、嫌になったら電源をボタン一つで切る。つまり、何でも一瞬のうちに自分の思いどおりになる世界に慣れ育ってきたからです。

ところが子どもはそうはいきません。十人十色とはよくいったもので、子育てには正解がないだけに手探りの連続でしょう。何かお子さんのことで心配なことがございましたら、遠慮なくご相談ください。

子どもたちにとって最初に出会ういちばん身近な人は母親です。そして父親です。ということは、**人生最初の教師は親だ**ということになります。

つまり、真っ白な画用紙に最初に絵筆を入れる人、それが親なのです。そして、その色に着色を加えていくのも親であり、家族であり、私たちこども園の職員です。

本職員は、温かみのある色をお子さんに着色していきたいと願い、日々子どもたちと向き合っています。

無限の可能性を秘めた子どもたち。これからもお子さんのよさを伸ばし、可能性を引き出し、保護者の皆様と喜びを共有し合いながら、お子さんの成長を支援してまいりますので、今後とも本園の取組に対しまして、ご理解、ご協力のほど、よろしく願いいたします。